

京都教育大学FDニュース

No. 84

2018年1月30日

京都教育大学FD委員会

本学におけるFD活動の一環として実施しております「授業アンケート」へのご理解とご協力を感謝申し上げます。

今回のFDニュースでは、平成29年度教育学部前期授業アンケート及び第1回FD研修会について、報告いたします。

1. 平成29年度教育学部前期授業アンケート

(1) 調査の概要

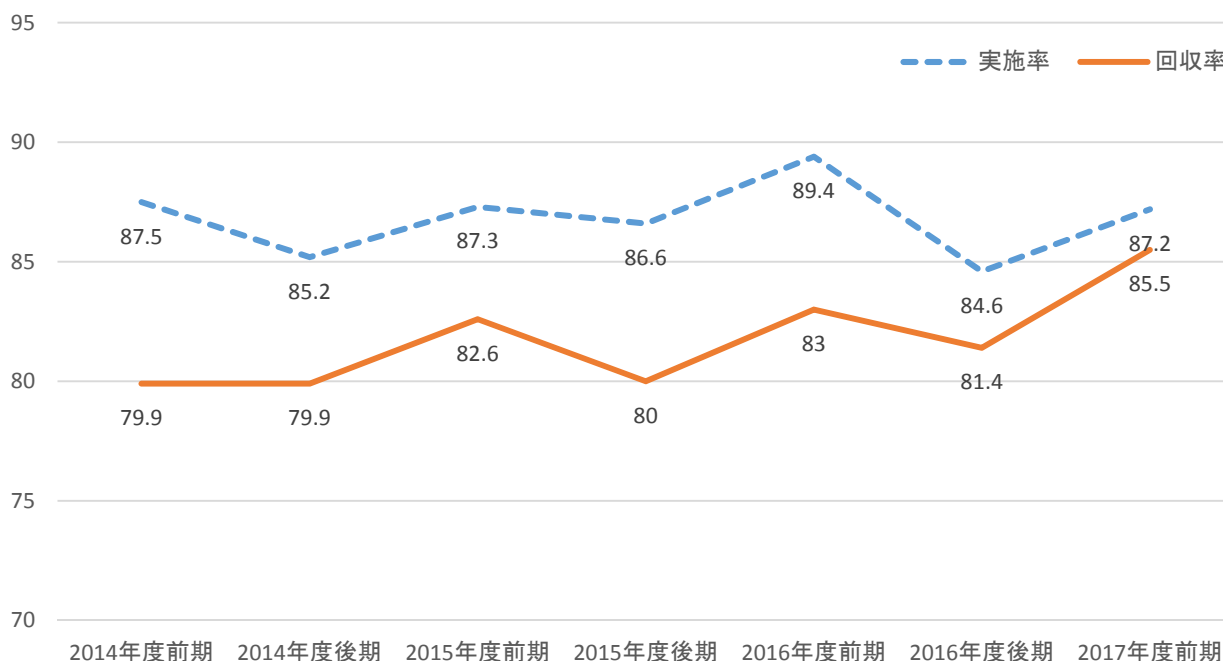
実施期間：2017年7月19日（水）～8月1日（火）

対象科目：受講登録者6名以上の全授業科目

対象科目数：368，実施科目数：321（実施率87.2%）（未回収47 全白紙0）

実施科目の履修者数：12,022名，回答者数：10,276名（回収率85.5%）

(2) 近年の調査実施率と回収率の変遷

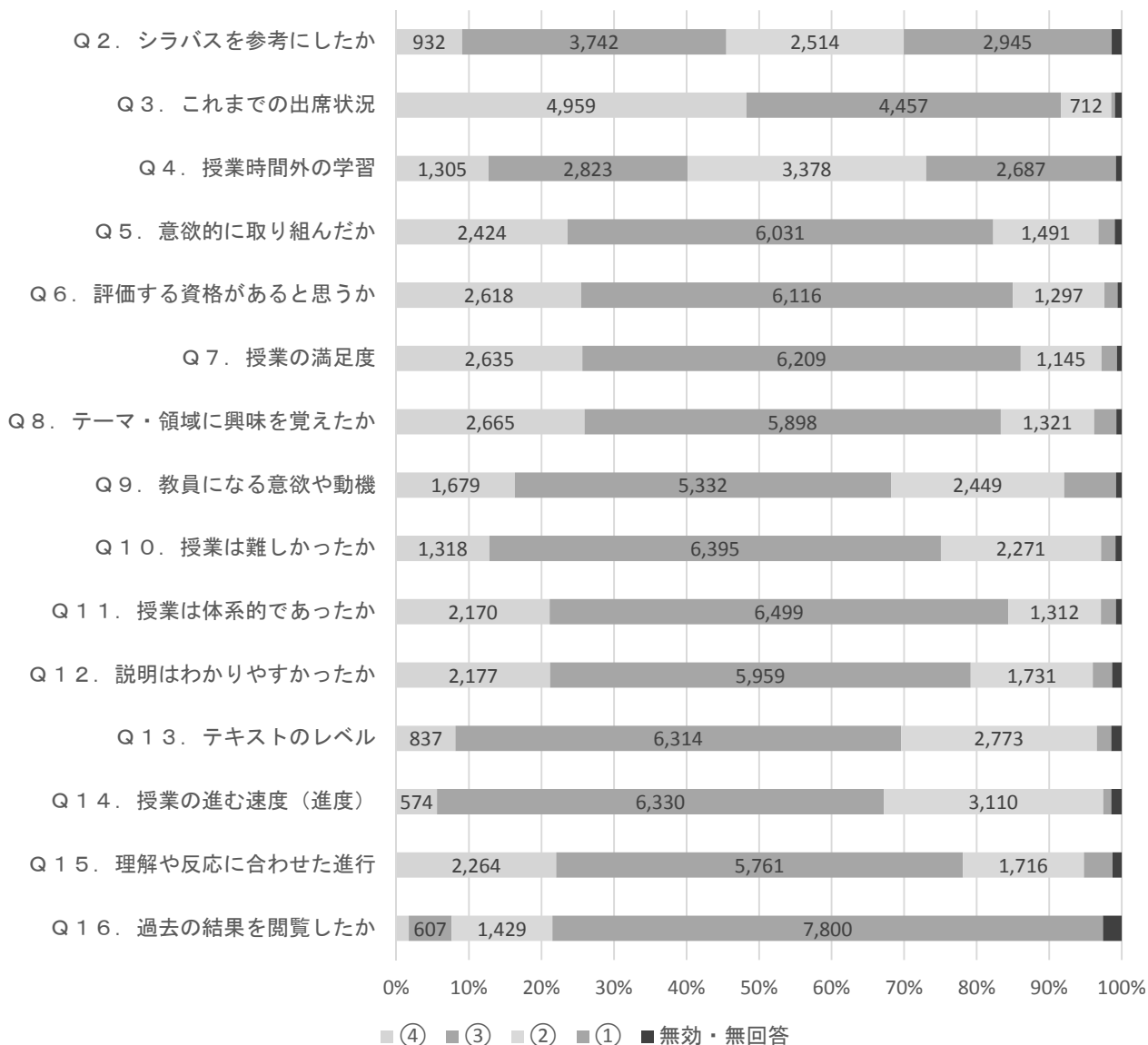


調査実施率と回収率の変遷（2014年前期から2017年前期）

過去4年間の実施率（実施科目数／対象科目数）と回収率（有効回答数／実施科目履修者数）をグラフに示します。平成29年度前期授業アンケートは、実施率・回収率ともに高く、特に回収率はこちら数年間で最も高い結果となりました。ご協力いただきありがとうございました。

(3) 結果の概要

①Q2～Q16 全体回答の帯グラフ (基本的な母数=10276 一部複数回答)



- Q 2. 5. 6. 8. 9. 11. 15. ④とても ③やや ②あまり ①ほとんどなし
- Q. 3 ④全出席 ③1～2回欠席 ②3～4回欠席 ①5回以上
- Q. 4 ④2時間以上 ③1～2時間 ②1時間未満 ①ほとんどなし
- Q. 7 ④満足 ③やや満足 ②やや不満 ①不満
- Q. 10. 13 ④難しい ③やや難しい ②やや易しい ①易しい
- Q. 12 ④分かりやすい ③やや分かりやすい ②やや分かりにくい ①分かりにくい
- Q. 14 ④速い ③やや速い ②やや遅い ①遅い
- Q. 16 ④ほぼ全て ③閲覧している ②あまり ①全く

全体平均のグラフです。経年変化についても調べてみましたが、平均の数字ではほとんど変動がみられませんでした。これらの設問の中では、授業時間外の学習時間および教員になる意欲や動機をさらに高める取り組みが必要となると考えられます。

②「授業に満足した群」と「満足しなかった群」の違い

授業の満足度を問う質問 Q7 に対して「満足した」、「やや満足した」と回答した 8,844 名 (86.1%) の「授業に満足した群」と「やや不満だった」、「不満だった」と回答した 1,364 名 (13.2%) の「授業に満足しなかった群」を比較しました。

Q3 の出席状況、Q10 の授業の難易度は授業満足度による差が見られませんでした。この結果は過去数年間同じような傾向が続いています。出席状況については出席を取る授業が多い場合は、満足度に関わらず出席をしているかもしれません。授業の難易度については、授業の内容が難しかったとしても Q12 のようにわかりやすい説明をしている、さらに Q15 のように理解や反応に合わせた進行をしている場合は満足度が高いことが推察されます。

以上の結果は今後の授業改善の参考にして頂ければ幸いです。



2. 第1回FD研修会

・「教員養成を基盤に据えたFDのあり方

ーライブキャンパスの活用事例ー」講師：数学科 黒田 恭史先生

・「授業におけるICT活用」講師：産業技術科学科 多田 知正先生

平成29年11月15日（水）の定例教授会前（13：30～14：20）に、本年度の第1回FD研修会を行いました。参加者56名という盛況の中、数学科の黒田先生と産業技術科学科の多田先生にご講演いただきました。

以下に、講演の内容をご報告させていただきます。

「教員養成を基盤に据えたFDのあり方ーライブキャンパスの活用事例ー」

講演者：黒田恭史先生

(1) 教員養成のあり方

「真のスクールリーダー」には、教員としての真摯な姿勢とともに、ICTを効果的に活用し、情報を共有することも大切である。また、授業アンケートなどによる評価項目のうち「時間外学習」の少なさは日本独特の傾向で、世界から見たらいびつである。このような現状を正すべく、例えば学生に10年後の自身の教師像を意識させることで、自主的な学びへと繋げるなど、時間外学習に取り組みせる工夫をしている。

(2) 学校現場でのICT活用

ICTの活用には様々あるが、授業中での活用よりも、業務での活用や、自身の成長のための活用が大切である。学校現場でICT導入が進み、授業中だけではなく職員室などでは職員朝礼の時間を節約するなどの目的で使われている現状がある。そのような環境に馴染める学生を育てるために、現場の状況を把握しておくことが必要である。その一例として、今どきの学生は、スマホで文章を作成することが多く、キーボードで入力するパソコンでの作業には慣れていないという意外な現象を取り上げた。

(3) ライブキャンパス活用例

「ライブキャンパスは単純で使いやすい！」という宣言とともに活用例が説明された。授業で使う資料を学生がダウンロードできるように、ライブキャンパス上で公開しておくことで、休講した学生は、自身で学習のフォローができることや、レポートの提出先をシステム上にしておくと、学生は家からでも課題を提出でき、教員は提出管理が楽であることなどが紹介された。

(4) 結語

未来の学校をイメージし、その現場に必要とされるICT活用能力を、大学4年間で体系的に学ぶカリキュラムの設置が必要であると締めくくられた。



「授業における ICT 活用」 講師：産業技術科学科 多田 知正先生

講演の資料はあえて手元に用意せず、情報化推進委員会の WWW ページにアップされた。情報化推進委員会でなっている会議のペーパーレス化の一環である。

(1) 授業の中での PC 活用

本学でも学生の PC 必携化が検討されている。授業で PC を使うことにより、インターネットでの検索や画像や動画などの補助資料の提示などにより学習効果がアップするが、それ以上に教員と学生の双方にとって手間や時間の節約につながる大きなメリットである。黒板の代わりにプロジェクタに投影したパソコンでリアルタイムに板書し、最終的にデータを資料として配る、という取り組みも紹介された。ノートにまとめる作業自体が学習効果を生むとの見方もあるが、これは授業の中ではなく、時間外学習の振り返り方法として行えば良いとの提案もあった。



(2) PC を使った資料作成と課題回収について

PC データとして作成した資料は配布が楽で欠席した学生にも届き、残部の処理もなく手間が省ける。また、紙の制約にとらわれることなく、1 ページに内容を詰め込まなくても良い。また、課題回収の際には、他の用件と混じりやすいメールを使わず、ライブキャンパスなどを活用し、提出の際のデータ名には学籍番号と名前を含めたファイル名に統一しておく、後の管理が楽である。

(3) PC とのつきあいかた

PC を使う上で、長時間画面を見続けることによる眼精疲労は避けられない。少しでも疲労を減らすためには、画面を暗くする（チラツキのないモニターを選ぶ）、画面を「黒く」反転させることが効果的である。

PC を使用する最大の目的は「楽をする」ことであると締めくくられた。

講演の後には質疑応答の時間が取られ、「PC の導入によるコミュニケーション能力の低下」については、「発達段階や状況ごとに使い方を考えるべきであるが、PC を活用することに節約された時間を、コミュニケーションに充てるのも一案」等のやりとりがあった。

次に、本研修会終了後に実施したアンケートから回答をいくつかご紹介いたします。

- ・非常に役立つ情報が多く、大変勉強になりました。ライブキャンパスの使用法についてもまだ知らないことも多く、1 度説明会もしくは使用方法についての冊子等あってもよいと思いました。（レポートの件、一斉連絡等知りませんでした）授業に関しては、ICT を使用するメリット、デメリット等もよくわかり、自分ならどのように取り入れることができるか、また考える機会になりました。学校の職員室も ICT 化されている事もおどろきでした。初田先生が言われていたように、やはりどこかでそれに頼りすぎたはいけない、人間どうしのコミュニケーションの大切さもうまく指導できる方法を見つけられればと思いました。しかし ICT 化することにより、記録されること、又時間短縮できること等、納得！のこともありました。子どもたちはタッチパネルの操作は早くキーボードが遅いと言われてましたが、パソコンもタッチパネルで打てる時代がくるかもしれないですね。
- ・新しい視点で自分の授業を見直すことができました。私自身、板書、パワポ、YouTube、BDなどを組み合わせて、学生が参加（積極的に）する授業を心掛けているのですが、Live Campus は未開拓の分野でした。活用するよう頑張ります！！先日桃小の授業で、タブレットを使って、何を学んだのかを全員が記入してい

ました。書字障害の生徒の様子を見せていただいたのですが、負担なく、提出でき、学習障害の生徒にも、すばらしい支援になっている事を担任の先生、桃小の先生方にフィードバックいたしました。あと、出席をネットでとれるようにして下さい。不正を防ぐ必要がありますが。

- ・黒田先生、多田先生どちらのお話も有用で、未来の教育、学校も含めた方向性を示していただけでよかった。具体的に活用できる内容でした。
- ・授業外の学習時間が少ないことに気づいていましたが、工夫があると痛感しました。今の学生がそれ程キーボードができないとは気づいていませんでした。
- ・レポート提出など、ライブキャンパスを利用しようと思います。ICTを用いて、事務書類（学科関係など）を添付なり、学科のファイルを作って年度内に時系列で保存するようにしています。（時々、教員によってはアップせずになくなって、困りますが…）教員が少なくなっているの、なるべく、文書管理、作成、スケジュール管理など手間のかからないようにしたいと思います。
- ・ともに、上手にポイントをまとめられたお話でわかりやすく、視野を広げて戴きました。
- ・多田先生の話として、しくみと画面の明るさのことなど、素人にもわかりやすく助かりました。
- ・わかりやすく、よい研修会でした。Live campus の機能については、初めてのことが多く実際に取り入れてみようと思いました。
- ・LIVE CAMPUS にいろいろな機能があることを知ることができて良かった。「ICTの活用をしなければいけない」ということではなく、手間をはぶくという発想で良いというのを聞いて、ICTに対するハードルが下がった。

〈Live Campus についてのお願い〉→教務のご担当者にお伝え下さい。

- レポートについては、提出と採点（点数）の機能しかありません。コメントを教員から学生に返却できる機能を付けてください。
- 現在、留学生、研究生はLive Campus に履修登録がなされておらず、別対応が必要で、かえって手間がかかっています。研究生は無理にしても留学生（特別聴講学生、日研生）は、登録に加えていただきたいです。
- ・ICT 活用による時短⇒同意します、が…本来早く帰れるはずが余計な仕事が増える状況にあるような気がします。ICT 活用による時短⇒をしてしまうと、45分 or 50分の授業や、勤務時間を消費できなくなる…（から困る）ということも特に近年よく耳にするようになりました。個人的には早く済ませて早く帰りたいと思います。

今回の講演では、すぐに実践できそうな具体的な提案もあり、参加者からも有意義な時間であったとご意見を多く頂戴いたしました。今後も、皆様の日々の教育活動に役立つ内容をお届けできるよう取り組んで参ります。

問い合わせなどがありましたら、下記の委員までお願いいたします。

FD委員会委員：太田（委員長）、藪根（副委員長）、山口、神代、佐藤（美）
（事務担当：富家、山本、鈴木）